

# しあわせ

3 月 号



七宝の宝池いさぎよく  
しちほうのたからいけいさぎよく

八功德水みちみり  
はつとくどくすい

無漏の依果不思議なり  
むろのよえかふしぎ

功德藏を歸命せよ  
くどくぞうをきみまう

『浄土和讃』四五

七つの宝で飾られた浄土の池には、八つの優れた徳をそなえた水が満ちている。煩惱の濁りなき智慧によって、ここらもことばもおよばない清浄なる境界をひらかれている阿弥陀如来に帰依しなさい。

(意訳)

## 「手を合わせる母」

去年の三月は新型コロナウイルスの拡大が始まり急遽、対応に振り回されることとなり、幼稚園では、お別れ演奏会や卒園式など異例の対応をとることとなった。

世界中を大混乱に陥れた新型コロナ。ワクチン開発に期待が寄せられて、ようやく先が見えてきたというものの冬場の感染拡大はすさまじかった。オリンピックまで半年。選手をはじめ、世界の人々を不安なく迎えて賑々しく開催したいものはてさて？

この世に不安がなくなるなどありえないことを教えてくれたのも新型コロナウィルス。

非常時という言葉があるが、常に非ず、常なるものはないと説くのが仏教であり、諸行無常がシャバ（人生）であり、思うようにならないのがこの世である。しかしまた、大きな感動を呼び起こすのも無常なればこそでもある。

## 法座案内

### 春季彼岸法要

三月 十八日(木) 昼席・夜席  
十九日(金) 昼席

講師 米田順昭  
(廿日市市 最禪寺住職)

### 法味の会ーご和讃のこころー

三月二十六日 午前十時  
お話 自坊住職

※新型コロナウイルスの影響により急遽中止となった場合は、掲示板にてお知らせいたします。

※本堂内は常時換気しておりますが、参拝の際は、検温・マスク着用をお願い致します。

府中町山田二丁目一五十三  
栢原山 龍仙寺

電話(〇八二二)八二四八二



## 【浄土和讃（四五）】（八功德水）

金・銀・瑠璃るりなどの七つの寶石を沙とする浄土の池には、八つの功德をそなえたお水が満ちみちているとお経には説かれています。八つの功德とは、①清らかで、②臭からず、③軽やかで、④ほどよく冷たく、⑤軟らかく、⑥美味しく、⑦飲むのにちょうどよく、⑧飲んだ後おなかを壊さない、という八つの性質といわれますが、これは無量の徳を仮に八つとして説かれたものでしょう。そして、このように池の水もゆたかに輝く浄土のありさまは、すべて阿弥陀さまの無漏（むろ）の智慧によって感じとられた世界にはかならないと、親鸞さまはご和讃されています。無漏の智慧とは、煩惱の濁りのない智慧のことですが、もつとも清らかな感性と考えていただいたらよいでしょう。何ひとつも当たり前とせず、池の水にも、有り難くはかりなき意味を見出す感性、それが仏さまの智慧なのですね。

わたくしごとですが、先週から、母方の祖母をお寺で介護することになりました。物心ついた時からずっと「神戸のおばあちゃん」と慕ってきた祖母ですが、ここに来て「神戸の…」と呼べなくなり、新鮮な感じですよ。やさしくもきびしく、つねに毅然としていた祖母も、もう九十八才。ベッドか車イスかの生活ですが、寝ているばかりでは床ずれができてしまいますし、長いあいだ座っていると足がパンパンになってしまうので、いずれにしても注意が必要です。ベッドと車イスとの移乗もリフトがないと不可能で、左手は筋力の衰えでいつも指がのびてしまっています。そのような自分の体すらまったく思い通りにならない状況ですが、それでも祖母は笑顔をやさず「はいはい、どうにでもしてくださいよ」と、こちらの介護にすべてをまかせ、口をひらけば「うれしいわあ」「ありがとう」と言ってくれています。

そんな祖母が来てからは、生活のなかに「有難う」があふれるようになりました。いかに自分がこの言葉を口にしていなかったかを気づかされ、「おばあちゃん、来てくれてありがとうね」と声をかけると、「あなたそれは逆じゃない。こちらこそ、ありがとう」という祖母。お寺に有難うの花が咲きました。

また、長女が「おばあちゃんは、わすれっぽうじゃね」と言うように、祖母は記憶が一日どころか一時間ともちません。それぞれの「今」はしっかりしているのですが、その記憶がつかないのですね。ですから、母がみかんをむいて食べさせてあげていても、「おばあちゃん、まだおみかん食べる？」「まだ、ひとつもいただいてませんよ」と、おだやかな笑顔でまっさらな返答。お昼ごはんを食べた後も、「それじゃあ、なにかいただきますしよか」と笑顔のさいそくです。当然、自分が龍仙寺に来ていることも覚えら

れませんので、わたしを見ると毎日のように、「うれしいわあ、一真くんに遇えるなんて。ありがとう。あしたもきてね。」

と、日々まっさらに慶んでくれます。へおばあちゃん、毎日一緒にいるよ」と声をかけようとしたが、過ぎ去った日々や、未だ来ない明日を頭のなかでならべて毎日一緒に思っている自分と、過去もなく未来もなく、いま遇えていることに驚いている祖母、はたしてどちらに「今」が見えているのでしょうか。

## 七宝の宝池いさぎよく

## 八功德水みちみり

もちろん祖母も凡夫であり、これから先、有難うではなく愚痴しか出なくなる日がくるかもしれない。しかし、祖母がわたしに見える「今」を見つめている、そのことを大事に思うのです。そして、阿弥陀さまはどのような世界を見通してくださっているか、お念仏のなかに仰がせていただいています。